

令和6年度 特別の教育課程（書道科）の実施状況等について

柏原小学校

1. 本校の教育目標

明るく 正しく たくましく

- 明るく、心豊かな子
- 正しく、実践力のある子
- たくましく、健康な子

2. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

小学校第1～6学年において新教科「書道科」を設ける。第1学年は、国語を30時間、生活科を4時間削減して、第2学年は、国語を30時間、生活科を5時間削減して新教科に充てる。第3～6学年は、国語を30時間、総合的な学習の時間を5時間削減して新教科に充てる。「書道科」において、書を書くという具体的な活動を通し、友だちと触れ合ったり、家庭生活での話題をもたらしたり、地域の人々とのかかわりを生んだりする。そこから、集団の中での自分の役割や行動の仕方を考えさせるとともに、「書のまち」に生きるよさと愛着をもたせる。

また「書道」という伝統文化や「書のまち」を発信する地域の特性を探究する活動にも取り組むことを通して、表現力の向上と向上心の伸長を図るとともに、日本古来の文化や自分の生活する地域を振り返りながら自己の生き方をも考えさせる。

(2) 特例の適用期間

平成28年4月1日～令和11年3月31日

(3) 実施学年

1年、2年、3年、4年、5年、6年、(特別支援学級 単独でも実施)

(4) 地域の特徴を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

本市は、三蹟のひとり小野道風の生誕の地と言われており、全国的にも数少ない書専門の美術館小野道風記念館を有し「書のまち春日井」として、書道の普及発展に力を入れている。特に、小野小学校では、愛知県下児童・生徒席上揮毫大会が昭和11年から戦争中も途切れることなく開催され、第1回からの優秀作品を保管するなど、愛知県の書道教育の中心的な役割を果たしてきている。

書道は「文字を正しく整えて書く」ことにおいて、従前から行われてきた国語科における書写の目的に共通するが、その文化・芸術性及び精神性においては、書写とは一線を引くものである。現在、児童の「表現力の向上」「心の教育の充実」などが重要な教育課題であると認識している。

それらを解決するため、前述した地域性や学校の特徴、さらには書道の特性を活かした「書道科」を設け、表現力の向上を目指すとともに、よりよい作品をつくりあげようとする向上心、つくりあげた達成感から得られる自尊感情、相互評価などの他者との関わりから得られる親切心や規範意識等、特に心の充実を図りたいと考える。また、同時に郷土愛についても、書道を通して「書のまち春日井」に根ざして生活している自覚を促し、育てていく。

(5) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

2に記載する特別の教育課程について、教育基本法（平成18年法律第120号）及び学校教育法（昭和22年法律第26号）に規定する小学校等の教育の目標に関する規定等に照らして適切であることを、春日井市教育委員会において確認済。

3. 特別の教育課程の実施状況に関する評価

(1) 評価の観点

- ① 特別の教育課程の編成・実施により、学校の教育目標が十全に達成されているか
- ② 教育課程全体としてバランスのとれた教育活動が実施され、学校教育法に示す学校教育の目標が十全に達成されているか

(2) 自己評価

児 童	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「とめ、はね、はらい」などを意識して上手に書くことができた。また、漢字のへんとつくりや上と下の文字の配列を意識して書くことができた。 ・ 1学期は文字が細かったけどどんどん太くかけるようになってきた。はらいとはねが苦手だったけど、講師の先生に教わってからうまくはらい、はねれるようになった。 ・ 字の入り方や、字の間隔など、色々なポイントを教えていただき、きれいに見えるようになったり（お手本に近くなった）、字のバランスがよくなったりした。 ・ 今まで、筆で書くことに自信がもてなかったけど、たくさん褒めてくださり、自分の字に自信をもてるようになった。 ・ 書のわーくしょっぷ「音楽に乗って大きな筆でかこう」では、大きな半紙に自分の気持ちをのせることができたことが楽しかった。いつもより字を大きく書くことができたことが貴重な経験になった。
教 員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 書講師が文字の配列や「はね、とめ、はらい」だけではなく、筆の持ち方や墨の量など根本的なことについても教えてくださり助かっている。 ・ 書講師が上手く書けなくて困っている児童に対し、個別でアドバイスをしていただき、優しく寄り添って教えてくれている。 ・ 4年生「己書」や6年生「音楽に乗って大きな筆で書こう」などは、外部講師による出前授業をしていただき、表現することの楽しさを味わうことができた。今後も自己表現力を高める取組を続けたい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3年生「家族への気持ちを表す漢字一文字」や5年生「固形墨で詩を書こう」など、各学年で書の学習を生かした作品作りに取り組むことができた。 ・ 小野道風について調べ学習をすることができた。
保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもが集中して書に向かう環境が整っている。 ・ 普段筆に触れる機会がないので楽しく活動できたようだ。 ・ 大きな書では迫力のある作品が完成し驚いた。 ・ 掲示作品を見ていると頑張っていることが伝わってくる。ふだんノートやプリントに書く字も丁寧に書けるとよい。 ・ 書の学習を生かした作品は、一人一人の個性が表れていて良いと思う。グループや学級で力を合わせて行う「作品作り」もあると、さらに学習が充実するのではないか。

(3) 学校関係者評価

<ul style="list-style-type: none"> ・ 日々の練習で基本的な「とめ・はね・はらい」を学ぶことで、作品作りで字形を工夫し、個性を出すことが出来ていると思う。 ・ 1年生から書に親しみ、積み重ねることで6年生では皆が素晴らしい字を書けていると思うので、学校の取組をそのまま継続させていくとよい。 ・ 書の作品が、それぞれ子どもたちの個を大切にした作品が多く素晴らしい。 ・ 姿勢や礼儀なども同時に学べるとよい。 ・ 書き順が違う児童が見られるので、お手本に記すなど指導できるとよい。 ・ 左利きの児童へどのような配慮をしているか。
--

(4) 課題

<ul style="list-style-type: none"> ・ 書を生かした作品作りへの取組に、学年・学級でややばらつきがある。「書のまち春日井」の取組を共有し、書道科学習の一層の充実を図りたい。
--